

Heartful Communication

JA ひがしみの

ひがしみの

9

2020 SEPTEMBER
Vol.270

特集

広報担当者が選ぶ
第1回 勝手に! ぼたコン



恵那市中野方町
鷺見 則幸さん(65)



「買って」と言わなくても 「分けて」と人が寄ってくるには

全部で20枚、合わせて1畝の田んぼで、鷺見さんはコシヒカリを作っています。父親から田んぼを受け継いで9年目。5年目以降は全ての米が売れてしまい、自分たちの食べる分は買って間に合わせているといいます。

「田んぼを受け継ぐとき、嫌にならずに、楽しくなる方法を考えたい、人に喜ばれるものを作りたいと考えた。こちらから「買って」と言わなくても、「分けて」と人が寄ってくるにはどうしたらいいか」と話す鷺見さん。田植え前には毎年、長期の天気予報とにらめっこして、株間を21〜30cmまでの何cmにするのか悩むところから始まります。

「暑い盛りに穂が出ると登熟が一気に進んでしまう。うちでは若干遅く出穂し、少しでも長い期間をかけて登熟が進むように苗の段階から調整している。

そして秋は、3分の1ほどが実ったら水を落とす。10月下旬まで水田で立ったまま風に当てるのを待ちます。ヨソでひこばえが伸びてい

るのを見ると、もったいない！最後まで肥料を吸わせたい！と思いますね」。

6月10日以降に田植えをしている鷺見さん。「麦との組み合わせで二毛作をして農業だけで採算が合うようにできないか。今年の気温の変わり方は何年前と似ているから」と米作りに活かしているデータの蓄積がほしい。そして、一番苦労する草刈りを何とかしたい。地域に合った10cm以上伸びない草を作るとか(笑)。柔軟な発想と行動力を活かしながら、3年前からは「中野方うまい米づくり研究会」に入り、10人ほどの仲間たちと切磋琢磨しています。



JAおいしいお米コンテストを目標に

8月17日撮影の鷺見さんのコシヒカリ。比較的遅い出穂。JAのおいしいお米コンテスト(12ページで募集あり)でも、入賞者は土壌改良や施肥の体系に共通点があるほか、従来よりも遅い田植えと稲刈りの傾向が見られます。

鷺見さんは平成30年、米・食味分析鑑定コンクールの国際大会に出品し、プレミアムライセンスクラブの一員と認められています。今後は、JAのおいしいお米コンテストでの入賞も目指しています。



特集

広報担当者が選ぶ
第1回 勝手に!

ぼたコン (ぼたコンテスト)



撮影 / 大塚 健司

明治維新のころ、日本を訪れた多くの欧米人に「こんな美しい国で一生過ごしたい」「日本の田園はすべて公園である」と言わしめたという日本の農村風景。一世を風靡した『国家の品格』の中で藤原正彦氏は「美しい風景から美しい情緒が生まれ、それが文化や学問の源泉となる。真の国際人を育てるには、ただの会話の一つの手段に過ぎない英語教育に力を入れるよりも、文学(国語)に親しみ、深い情緒を育てることの方がはるかに重要」という主旨を述べています。

そんな文化や学問の源泉となる美しい農村風景を造り出してきた「ぼた」の中から今回は、JA広報担当者が管内をめぐるうちに思わず心を奪われた美しいぼたを勝手に表彰していきます！(紙面での紹介のみです。ごめんなさい！)

ここで紹介できなかったぼたもたくさんありますが、「うちの方がきれいだぞ」「省力管理の工夫では負けないぞ」等々、そんな方は組織広報課までどしどしお便りください！ またいつか第2回ぼたコンにつながるかも…!?





箱庭の中に迷い込んだような感覚におちいり、「不思議の国のアリス」よろしく3月うさぎが走り出してきたり、チエシャ猫がどこかに潜んでいるのでは…などと妄想は膨らむ。



中津川市福岡 上の平地区

森に縁^{ふち}どられた地区^{ふち}一帯はどこまでも手入れが行き届いて、まるでおとぎの国のような美しさ。

地元の目

中学生の頃から親に言われて牛を使って田んぼの耕起などを行っていました。高校を過ぎたら動力付きの耕耘機が登場しました。

今思うと、牛に鋤を引かせて回る仕事が一番良かったね。若かったからできたけど。そして畔^{あぜ}塗りもえなかった。昭和61年から62年に圃場整備があり、その後は畔^{あぜ}塗りの必要がなくなったので、今、一番えらいのは草刈り。今年は約90^アで米を作っている。ぼたの多くは野芝が覆っている。草刈りは5月から9月まで5回と決めている。

8年前にスパイダーモアを買いました。作業は倍以上早いし、体も楽で、省力化といえこれですね。周りでも多くの農家が使っています。



森本 勝美さん
76歳



撮影／大塚 健司



恵那市三郷町 佐々良木地区

水稲種子が生産される地区として誇らしさを感じる水田地帯の美しさ。空が広く田園との対比も圧倒的。



農家51戸が加入する三郷米麦採種生産組合は今年で55年目を迎え、組合員は60・5^人で種もみの生産に励んでいます。

同組合員の圃場が多く広がる佐々良木地区は気持ちの良い田園風景として一度通ったことのある人ならば誰もがその名を挙げるような景色が広がっています。組合のメンバーが生産した種もみは翌春、JAの育苗センターで苗に育てられ、東美濃地域の農家にも配達されます。

1戸当たりは20^ア前後から多い農家では11^戸もあり、出穂の時期には田の中を歩き回って、早く穂が出たものや遅く出るものは異品種として全て抜き取る作業などが行われます。

地元の目

原種を育てているので、大きな責任を感じています。病害虫の予防のためにも風通しよく稲が蒸れないように草刈りにも励みます。草刈りスタイルは地下足袋と背中簀^みが欠かせません。雪が積もった時、北西向きのぼたの側面にだけ雪が解け残る、その景色も他にない美しさですよ。

広報担当者だけでなく、地区を通ったことのある人ならば誰もがその名を挙げる随一の農村風景。



広報担当者が選ぶ
第1回 勝手に!

ぼたコン



恵那市明智町 東山地区

美林までつながるダイナミックな高ぼたが
よく手入れされて西日の陰影も美しい。



ぼたを手入れする3軒の農家、草刈りの主役はそれぞれ88歳、84歳、88歳。もはやあっぱれ。どうかご無理はなさらずに。



明智町の信号「市場町」から東へ向かうとほどなく現れる一帯。農家の庭先から、視線は自然と奥のヒノキ林までへといざなわれ…2度見間違いなしのスポット。

と1回余分に刈らんならん(笑)。

出かけた時、改めて自分たちが手入れしている一帯を見ると、「きれい」とか言うよりは、また伸びてるなあ、と2人は笑います。

庭が好きで、自宅に作り上げた日本庭園と草花を楽しむ2人。夕方、暑さを避けてぼたに植えたサツキなどの手入れに励みます。

地元の目



梅村 久男さん
88歳

てる子さん
83歳





柘植 哲英さん
70歳

向かって左側は6月10日に草刈りした後抑草剤を散布したもの(それ以降草刈りはしていない)。右側は7月20日に草刈り後抑草剤散布(8月6日撮影)。



恵那市笠置町姫栗
田沢地区

ゴルフ場のように行き届いた美しさ。

もはや生える草の種類も、ぼたの主の言うことを聞いて生えてくるのではと疑うほど揃っている。ぼたが輝いて見える。

「新聞を取りにいく時、きれいだなあと思うよね。あとは夕方から、庭にサマーベッドを出して夜の七時ごろまで景色を見ながら寛いでいる。気持ちいいよ。」

そう話す柘植さんが、ぼたの管理を満足にできるようになったのは、65歳でサービス業の第一線を退いてから。

当初、ぼたは4月から10月まで7回草を刈っていました。2年前からは抑草剤「グラスシヨート」を試してその効果を実感。平成13年の圃場整備後に養生してきたセンチピードグラスが覆う見事なぼたとなっています。シーズン中2〜3回の草刈りと、草刈り後に同剤を散布することで草が伸びる速度が抑えられるので省力化になっているといいます。草刈りはスパイダーモアとひとりで。抑草剤を混ぜた20リットルの動力噴霧器を背負うのも負担ではありませんが、草刈りと刈った草を集める作業の負担、そして費用とを天秤にかけながら、自分の体を大切にするために、いろいろ試しています。



田沢〜西洞の風光明媚な一帯の一角。高ぼたの管理の苦勞も偲ばれる目に麗しいこの景色。

撮影／大塚 健司

体の負担を少なく スパイダーモア人気

自走式草刈機の人気は

年々高まり、J A

ひがしみの各農

機センター

の販売でも

年間100

台以上が売

れています。特に傾斜地で使えるスパイダーモア(スパイダー=蜘蛛のように斜面50度まで対応して使える)がよく売れます。

ざっと比べてみると…

刈払機

価格 4〜5万円代

本体重量 4・2〜4・5 kg

排気量 23〜26 cc

スパイダーモア

価格 22万円代〜

本体重量 50 kg

排気量 80 cc



「排気量が大きく燃料はかかるが、半日かかっていた仕事は機械について歩いていくだけで1時間ほどでき体力的に大幅に楽になった」「刈払機4〜5台分の仕事をしてくれると感じるので、使ってみて値段にも納得」などの声が聞かれます。

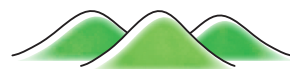




中津川市田瀬 矢平地区

付知川沿いのふもとから矢平地区に向かうと、
山沿いの細長い集落から植林山に入る。

薄暗い山を抜けると、そこにぽっかりと現れる美しい山里。秘境の感。



急に空が開け、積み上げられた薪棚と石積みの田んぼのゆるやかな曲線に目を奪われる。初めて訪れた場所なのに、なぜか懐かしい。

愛用するのは2枚入りで2,000円ほどのチップソーや断面が四角いナイロンコード(ひも)。午前中刈って昼に刃を研いで、昼からも、と草刈りに追われます。

13枚あった田をたまらず自腹で4枚に構造改善したのもその後のことでした。ぼたが滑らかでなくスパイダーモアだけではきれいに刈れないため、チップソーやひもも使います。「草刈り場だけで1町歩ある(苦笑)」と熊崎さん。ぼたには亜高山帯などの限られた地域に自生するウメバチソウが生えており、8月のお盆過ぎの草刈りは花が終わる10月下旬まで待ちます。



地元の目

40年以上前、熊崎さんの両親がまだ米作りの主体だったころ、標高630mのこの地区では、冷害で実が入らず、1〜2割の米しか採れなかったことがありました。「それまでも、一年おきに豊作と凶作を繰り返していた」といいます。当時、難しいとされていたコシヒカリの栽培勉強会を開き、翌年から思い切って自分が主体となって品種を切り替え、親とは全く違う米作りを始めました。それからは毎年、収量が安定してきたといえます。



たかはる 熊崎 隆治さん 72歳

休耕田の草刈りにハンマーナイフモアレントアルあります。

半日 6,000円〜

休耕田など平らな場所の草刈りに。

※スパイダーモアの

レントアルは行っていないせん。

※この他にオプション料金納品引き取り料、洗車料等が必要です。

※レントアルには予約が必要です。

※お問い合わせは各農機センターへ。

センチピードグラスで省力化しませんか

センチピードグラスは芝の仲間、繁茂すれば他の雑草の生育を長期にわたって抑えるため、草刈り作業が大幅に軽減され、景観もよくなります。法面概ね1000㎡からお受けします。



吹き付け前の土面を事前に除草(苔などの除去も含む)しておくこと、吹き付け当日の補助として4名の出役をお願いします。

吹き付け作業料金

462円/㎡(令和2年度参考価格)

※媒体・種子・水を攪拌して専用機械で吹き付けます(法面1000㎡60分程度)。

左手前のぼたが吹き付け後1年経過。右奥が吹き付け処理直後。

